

ご挨拶



滋賀県立大学理事長・学長 廣川 能嗣

湖風会「工学部学友会」第6回総会が、盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。また、工学部ホームカミング・デイと共催して、本学キャンパスで開催されますことに、感謝申し上げます。

「工学部学友会」におかれては、2011年11月に設立総会を開催されてから、早いもので10年余りが経ちました。これまで、大変活発に活動を進められていることに敬意を表します。特に、会員の皆様と工学部の教職員や学生との連携推進にご尽力賜り、学生の会社訪問や工場見学会を開催して頂くなど、大学としても大変お世話になり心よりお礼申し上げます。

滋賀県立大学は、1995年に開学して以来、今年で28年目を迎え、卒業生も数年前に1万人を超えています。「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、「環境」と「人間」をキーワードとして、「人が育つ」大学を目指して歩んでまいりました。2006年4月には、法人化して、公立大学法人滋賀県立大学となり、滋賀県から6年毎に示される中期目標を受け、大学では6年間の中期計画を作成し、目標達成に取り組んでいます。2018年度から始まった第3期中期計画では、大きな柱として、「教育」、「研究」、「地域貢献」に加えて、「ブランド力の向上」を立てています。

これは、2018年問題と言われるように、その年から18歳人口の減少が始まり、大学の受験者数も減少することが確実であり、本学においても早晚影響が出てくるものと考えられます。これに対応するためには、今から、受験生に選ばれる、魅力ある大学づくりを進めることに加えて、その情報を学外へ発信することが大変重要と考えています。滋賀県立大学の教育や研究、地域貢献などの取り組みやその成果などの魅力を、広報戦略に基づき、積極的に発信しています。

また、2018年から、本学が目指す持続可能な社会の実現と親和性の高い、SDGs(持続可能な開発目標)に取り組み、同年6月に「滋賀県立大学SDGs宣言」を行いました。毎年、学外の多くの参加者を迎えて「キャンパスSDGsびわ湖大会」を開催するなど、多様な取り組みを展開しています。

さらに、大学自身もみずから魅力度を増すべく、文理融合や学際融合などの教育研究が柔軟に行え、次代の知恵や新しい学問分野の創出などに取り組みやすくするために、2021年4月に、教教分離(教育組織と教員組織の分離)を行いました。教育組織である学部学科を俯瞰して、将来的に求められる大学の姿について展望できればと考えています。

2020年の年明けから顕在化した想定外の新型コロナ禍のため、第5回の貴総会は準備されていたにも関わらず、中止の英断を下されましたが、大学の活動においても、多くの制約を受けています。まだ、予断を許さない状況ですが、学生たちの学びに寄り添うと共に、一日も早い収束を願っています。

これまで先輩諸氏のご尽力のおかげで歴史を重ね、誇れる伝統が培われてきました。これからも「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」大学として、卒業生、地域の方々、そして、本学の学生・教職員が、これまで以上に魅力ある誇れる大学とすべく、同窓会との連携をさらに太くできればと願っています。

今後ともご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。